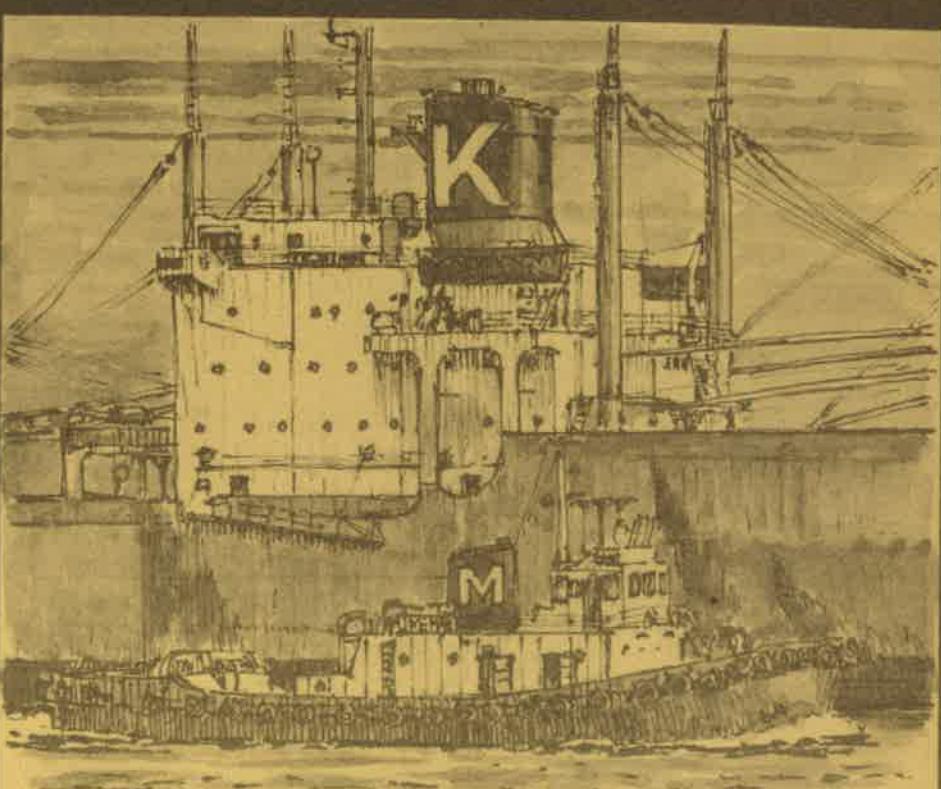


月刊・ブルーアンカー

# Blue Anchor



ENGLAND MARU

第9号

海文堂書店 1982・10[9]

〒650 神戸市中央区元町通 3-5-10

(電)

## 目

## 次

陸産貝類の採集の思い出	東 正 雄	2
昔の港・今の港	西 川 光 一	...
映画「大日本帝国」を観て	異 邦 人 T ・ O	9
「ブームスはお好き」あれこれ	植 村 達 男	15
神戸野球物語Ⅱ	棚 田 真 輔	17
ぶっく・えんど		19
郷土誌の窓		24
		27
		30

## 陸産貝類の採集の思い出

東 正 雄

(日本貝類学会評議員)

### マヤサンマイマイの発見

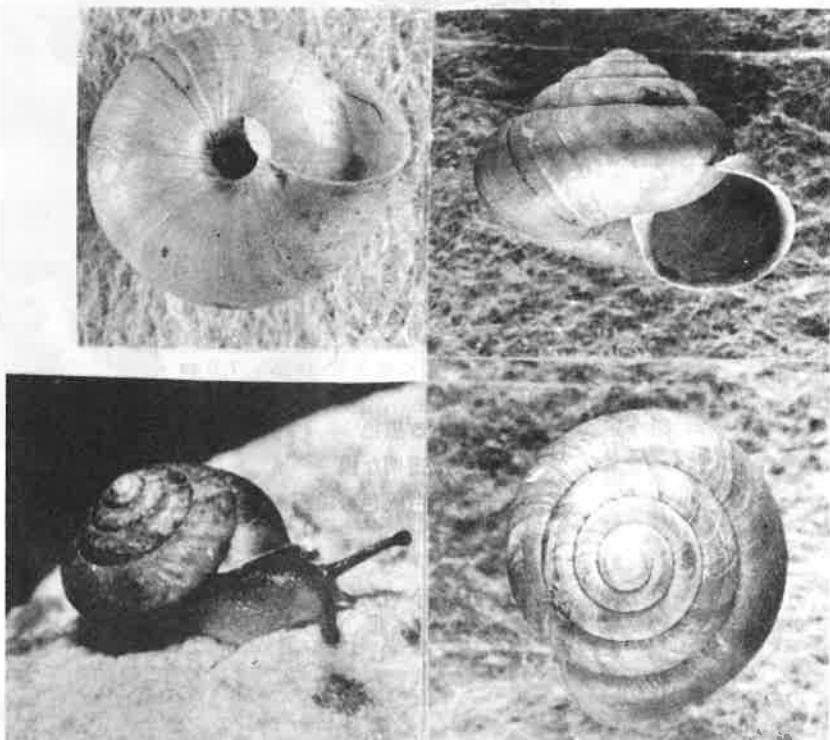
一九六〇年頃摩耶山に、オトメマイマイに似ていて、少し小形で、殻皮に毛状の付属物があるのが、生息しているときいたので、早速現地へ行つて調査したが、死殻を採集したのみで、生貝の発見はできなかつた。その後再び出向して、摩耶金堂近くの石段を登り、左側の少しのあきちで、右垣のすきまの落葉の下から、小さな幼貝を採集した。ルーペ（虫めがね）で、その幼貝をよく観察すると、オトメマイマイやアワジオトメマイマイではなく、別のものであると認めたが、幼貝であるから解剖しても生殖腺の発達が完成していないので、飼育して成長を楽しみにしていたが、その飼育方法が失敗して死ん

てしまい残念であった。その後前記の場所へ出向して、やつと成長した個体を採集した。鈴木君からも完成した資料を貰つたので、解剖の結果、別種で新種であると認めたので、一九六九年にマヤサンオトメマイマイ *Trisiliopliita mayasana* として発表した。その主な特徴は、殻が濃い褐色、殻皮に小さい毛状の付属物が密生している、螺層の各層に多くの微細脈があり、体層の周縁角はなく円味である。殻口は斜位、卵円形、その唇縁は広く拡がり反転している。殻口内の滑層は顯著。底面は脹れて臍孔へ急に傾斜する。臍孔は狭くて深い。

その後生殖腺の調査によつて *Aegista* 属によく似ているので、オトメマイマイ属よりも *Aegista* 属の仲間へ所属変更がよいと考えたので、和名をマヤサンマイマイに改称した。

この種は摩耶山のみに生息する珍種である。

尚本年8月5日香川県五剣山の山麓から「イソムラマイマイ」と呼ばれるものを採集した。前記のマヤサンマイマイに大変よく似ている。あるいは同種とも考えられる不思議なものである。

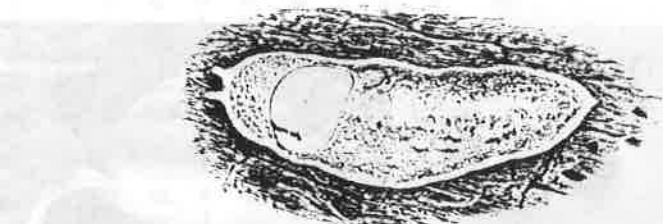


マヤサンマイマイ *Aegista mayasana* (Azuma, 1969)

摩耶山産 (殻高 5.5 mm, 殻径 8 mm, 5 1/2 層)

軟体は灰色、背面は暗灰色、触角は黒灰色。

## ヤマコウラナメクジの採集の思い出

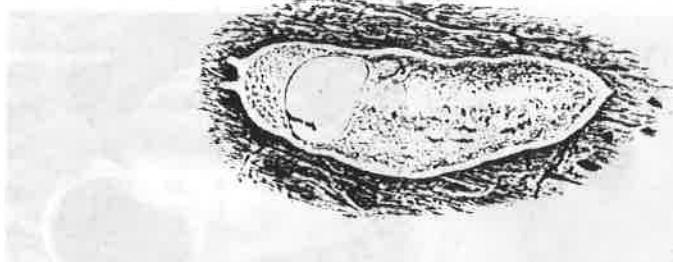


ヤマコウラナメクジ

体長	30 mm
体幅	6 mm
体高	7.5 mm

青味ある黒色  
周りは透明な膜  
前方に白灰色の楯たてがあり呼吸孔もある

一九五七年八月四日甲陽学院中学生物部、大山採集指導会（十余名参加）植物班花木繁君が先登、私は最後に登っていた。大山の山頂近く（一六五〇m内外）ダンセンキャラボク群落付近で説明していた時である。突然、花木君が大声で「先生新しい革靴が一足そろえておいてあります」……十数秒後「先生人が死んでいます」彼は悲しそうな甲かん高く驚き声で叫んだ……急いで現場に行つてみると、その人はうつむいてたおれていた。上衣は白ワイシャツ、下は黒色の長ズボンで、かなり腐乱状態で筋肉の一部が骨格から離れおちていた。……まあ大変です。……警察に早く届けましょう。…… 楽しい採集会が一転、変死体発見となり全員真青な顔色となり私の周りに集まつた。そこで早速山頂の登山警備所へ連絡させた。その腐乱死体の悪臭近くに一~二匹の小さなナメクジを発見した。急ぎアルコール漬にして持帰ったのが、その後の研究でヤマコウラナメクジであった。

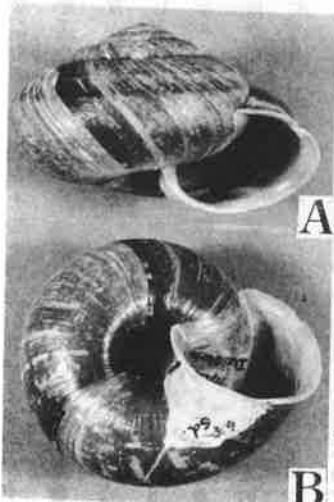


## ダイセンニシキマイマイ 採集の思い出

一九七九年七月七日、鳥取県大山不老園から有料道路を通り（約四〇km）鏡成へ松江在住の岡村一郎さんの車でドライブし、そこから一二〇〇m以上の擬宝珠山ぎぼうしゅやまへ登

ダイセンニシキマイマイ  
大山（1600~1700m）

A: 側面観  
B: 腹面観

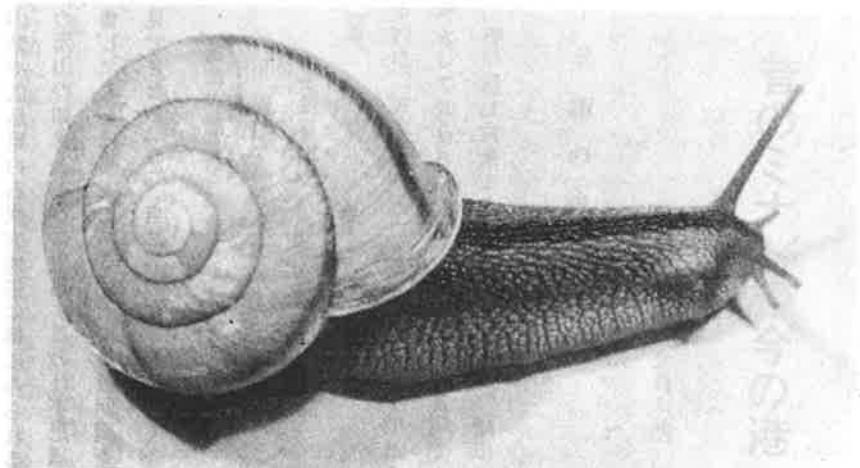


中央の瘤状の  
ものがダイセンニシキマイ  
マイであった。

擬宝珠山（1250m）ブナ樹径 76cm

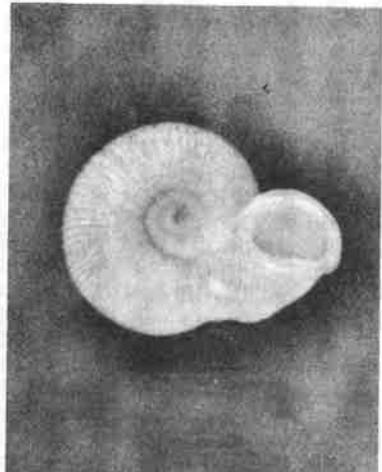
りながら陸貝の調査をした時である。ネマガリザサの群落を通りぬけ、ブナ林のややうす暗い繁みの落葉をのぞきながら前進していた。彼は枯枝を取りのぞきながら先登していた。家内（たか）も小さい荷物のサブリュークサックを片手にかけて採集に協力してくれていたが……

彼は常にブナの大木に留意しながら探していたのだろう。大木の樹上約二・五mぐらいの処にダイセンニシキマイマイらしいものを見つけた。家内はそれは木のこぶ状になつていていたので注意しなかつたようだ、私も木が瘤状に隆起している節だといつて、あまり意識しなかつた。雨後に三m以上登つて乾燥していたのであろうか、あるいは老成個体かなとも思った。彼は三mぐらいの細長い枯枝をもつて木の瘤状のものを取りおとすために再三再四努力してやつとおとしてみれば老成個体であった。ダイセンニシキマイマイ採集と生態観察ができた最初であった。実にほほえましい思い出であった。



ハクサンマイマイ  
石川県石山（高度 2300 m）  
1956年8月15日採集生態写真

軟体 鮮黃褐色  
背面中央に黒径がある。



イトウムシオイガイ

殻径 4.4 毫米  
殻高 1.75 毫米

### イトウムシオイガイを 淡路島先山で採集した思い出

一九五〇年十一月二十三日、淡路先山千光寺の石段の下の少し傾斜している、落葉のかなり多く堆積していたその上に小板の破片が二～三枚捨てられてあり、それが湿っていたその板を裏返しにしてみたら、色白で殻口のてまへが少しきびれたようで変わったムシオイガイが二個体ついていた。早速ガラス管瓶に入れて持帰り調べたら、イトウムシオイガイであると判明した。この貝は岡

### ハクサンマイマイ採集の思い出

一九五〇年八月十日、有馬在住の横山泰治君から、石川県白山（一五〇〇～一六〇〇m）から採集された大形のカタツムリをいたゞき、ハクサンマイマイの生貝を始めてみた。翌年八月十六日単身で早朝、白山の山麓山田屋旅館を出発、白山山系のみねづたいに登山しながら探し求めて、夕方近く午後七時ごろであった。その地点の高度は二〇〇〇～二〇五〇mで夕空の美しさにみとれていたその時、ダケカンバの樹上約三mの処に円形のものをみつけた……心はおどった……その枝をまげてみると、円形のものは……求めていたハクサンマイマイの（殻高二十九mm、殻径五十一mm、六・二分の一層）完成した個体であった。早朝からのつかれも忘れて、しばらくながめていた……急がないと山麓まで約六kmゆくのは暗くなる……小走り状態で下山したが、前記の山田屋旅館についたのは午後十一時頃であった。

山県や広島県の石炭岩地帯に稀にみられるもので、淡路の先山の如きところに生息するのは不思議であるが、採集したことは事実である。その後数回調査したが、再発見できなかつた。自然界の生態系は全く不思議である。



## 昔のミナト・今の港

神戸史談会会員 西川光一

### 1. 兵庫の津

神戸港は古来より良港として栄え、輪田の泊、兵庫の津として知られてきた。輪田の泊の名がはじめてみられるのは、万葉集の巻六の敏馬を過ぎて作れる長歌の反歌二首、

まさ鏡見宿女の浦は百船の

過ぎて行くべき浜ならなくに

浜清み浦うるわしみ神代より

千船の泊つる大輪田の浜

で、これより推察する時、天平の昔より灘区の敏馬神社のあたりから和田岬にかけて曲浦をなしていた海浜に多くの船が集まっていたことが分る。この大輪田の泊は水

深が深く良港であるが、ただ東南の風に弱く、しばしば平安時代に修復が加えられた。この港に注目し、神戸の地を愛した平清盛が大修築を加えて経ヶ島を築造した。志半ばにして完成をみなかつたが、港の基礎に手をつけてくれたという点、平清盛は神戸港の大恩人といわねばならない。鎌倉時代から室町時代にかけては大輪田泊に代つて兵庫と呼ばれるようになつたが、奈良の東大寺・興福寺等の領有に帰して、しばしば修復が行われた。宋船、後には明船や朝鮮・琉球の船をはじめとして諸国の船舶が多く出入りして、いろんな物資を積んで来て問屋なども出来、人口も増して非常な賑いを見せていた。そのため兵庫の港は戦国時代になると、政争の的となつて戦火にまかれ、荒廃してしまつた。その間に華やかな文化——いわゆる南蛮文化——の流入を堺に奪われたのは誠に残念なことであった。戦国の世を統一した信長は兵庫の重要性に注目し、つづいて秀吉は大阪城を築くに至つて、堺の商人を大阪に呼びよせ、大船の大坂に入ることを恐れて、兵庫の津を大阪の外港と考え、その復興に力を注いだ。このころ古湊川は流路を変更して、いわゆる

旧湊川になつていたので、兵庫の津は和田岬から湊川尻までの曲浦に十七浜の多くを数え、倉庫が立ち並び、諸國の船が再び賑やかに出入し、物資の集散は日ましに増大していく。ところが豊臣氏が滅び、徳川氏の代になると、家康は何故かこの重要な港湾都市を天領とせず、尼崎藩の所領として、商業都市大阪の下風においていた感がある。しかし、江戸時代は鎖国下におかれていったが、国内平和の到来と国内産業の発達は物資の流通、人の流れを促し、海陸の交通は非常な発達を見るに至り、日本海沿岸の北陸や東北地方の物資を瀬戸内海を通じて大阪に運ぶ西廻り海運が活用され、この航路の船は北前船と呼ばれ、また、大阪江戸間には菱垣廻船、樽廻船も発達した。運ぶ黄金時代を現出した。大阪は諸大名が中の島附近をはじめ、土佐堀川、江戸堀川等の何れも川べりの漕運の便利なところに蔵屋敷を設けていたので、大船は川口に停船して伝馬船などの小船に荷を積み替えて運ぶことになる。その場合、大阪の川口は決して良港としての条件をそなえておらなかつたので、おのずから兵庫の港が大阪の外港として重要な役割を荷なうことになった。

## 2. 兵 庫 港

さて、幕末に至つてペリーの来航以来、日米和親条約日米通商条約とつづいて五港の開港と二市の開市を要求してきた。殊に兵庫の開港は朝廷の最も反対するところであり、反面、諸外国の最も要求するところであった。文久元年（一八六一）イギリス公使オールコックは兵庫視察にやってきた。一般庶民はおそれて悉く戸を閉じてひっそり静まりかえっていたといわれる。彼は将来和田岬方面に居留地を求めたい意向であった。「居留地は和田岬」という言葉は兵庫の人たちにとつてショックであった。もし和田岬に居留地がおかれたとしたらどんなものであつたろうか。そののち、いよいよ兵庫開港がきました時、居留地は兵庫でなく、旧生田川筋と鯉川筋との間にきました。兵庫の人はほんとしたことであろうが、将来、神戸の中心が東へ伸びることが運命づけられたとは思ひもよらなかつたであろう。

2 兵庫港

視察にやってきた。一般庶民はおそれて悉く戸を閉じてひっそり静まりかえっていたといわれる。彼は将来和田岬方面に居留地を求めたい意向であった。「居留地は和田岬」という言葉は兵庫の人たちにとってショックであった。もし和田岬に居留地がおかれたとしたらどんなものであつたろうか。そののち、いよいよ兵庫開港がきまた時、居留地は兵庫でなく、旧生田川筋と鯉川筋との間にきまつた。兵庫の人はほつとしたことであろうが、将来、神戸の中心が東へ伸びることが運命づけられたと

海運の黄金時代を現出した。大阪は諸大名が中の島附近をはじめ、土佐堀川、江戸堀川等の何れも川べりの漕運の便利なところに藏屋敷を設けていたので、大船は川口に停船して伝馬船などの小船に荷を積み替えて運ぶことになる。その場合、大阪の川口は決して良港としての条件をそなえておらなかつたので、おのずから兵庫の港が大阪の外港として重要な役割を荷なうことになった。

西廻り航路も江戸大阪航路も貨物は兵庫の津で積替えて大阪に運漕したし、大阪で船積みした廻船も一たん兵庫にやつてきて風待ちするのが常であった。このように諸国の中の船が兵庫の津に出入し物資を運んできたので、兵庫の問屋業の発達も目覚しく、延宝年間（一六七三—八〇）には百三十六軒の問屋が許可され、明和六年（一七六九）幕府の直轄領になつてはじめて株仲間の名称をもつようになつた。諸問屋株、穀物仲買株、千鰯仲買株ホンジラ、煙草仲買株、素麺仲買株などそれぞれ株仲間があつて、その中でも諸問屋仲間、穀物仲間、千鰯仲間は兵庫の商業にとって最も大切なものであつた。その他に兵庫には浜本陣というのがあつて、西国大名と直接結びつく問屋業者でも用いられたが、これまた、兵庫の経済にプラスするものであった。北前船などの千石船が幾艘となく浜辺に集い、船からの荷揚げ、積み下ろしのたびに荷揚場はおいただしい荷揚人足の群れに賑い、この瀬戸内海第一の集散場としての繁栄は明治初年までつづいた。

船頭の舟が開いたり閉じたりして、そこで兵庫の津の  
昔からの欠点である東南の風を防ぐため、神田兵右衛門  
らによって新川運河が明治九年に完成し、つづいて明治  
三十二年には兵庫運河が八尾善四郎らの手によって完成  
し、有事の際の避難所となり、または和田岬を迂回する  
ことなく港に入ることが出来るようになって、運河は一  
つの交通路として重要な役割を果した。後にこの附近に  
は鐘紡、増田製粉、日本製粉など多くの工場が立並び大  
工業地帯を形成するに至った。

この運河の附近を通ると多くの船が往来し、その両岸には材木商が並び、流木が浮んで潮の香が強く漂つて港だなどいいう一種のなつかしさを感じさせたものであつた

大小貨物の荷役及び船客の乗降に便利な設備をつくる必要にせまられていた。明治十五年発行の、「港の魁」には宮内町に淡路、播州路、四国行の汽船乗客荷物取扱所の絵がのせてあり、「日々出港仕候」と書いている。明治二十二年兵庫船橋会社が興つて島上町海岸に長さ四十一間（約七五メートル）の船橋を連ね、その両側に小型蒸気

船三隻が繫留出来、大阪、洲本及徳島航路などの発着場として旅客の往来、貨物の輸送日に盛んになった。後に大阪商船の所有となり、島上桟橋として賑わった。大正二年にはこの前を神戸駅前から柳原への市電も通つて一層便利になり、そこを中心に倉庫、船用品店、船鍛冶屋、釣具店など軒を並べ活気を呈していた。この島上桟橋のことは今では大方忘れ去られて「神戸の史跡」などそれにふれているものの見当らないのは残念である。

湊川改修工事が行われ、その地均し工事が終つて当時神戸の唯一の飲食場新開地が出来たのは明治三十八年十一月のことである。ここには兵庫神戸の人々がこぞつて集つたわけだが、兵庫の人にとっては旧湊川・新開地をこえて神戸へ行くことは何か異つたところへ行くような気がしていたそうだが、そういう気風は永い間残つていた気がする。

### 3. 神 戸 港

開港当時の神戸港はただ良港としての自然的条件にた

よって、何ら港湾としての設備はなかつた。まず神戸税関の前身である神戸港運上所ができ上つたのが、明治元年二月（旧暦）で、間もなく東運上所と改称され、西運上所が造られて、神戸運上所前（現中突堤根元）宇治川の波止場などが沖がかりした船からの荷物の積下ろしの波止場としてつくられた。その附近には倉庫などがつくれ、とりあえず必要な施設は出来上つっていた。先の「湊の魁」には海岸通りに三菱汽船乗客荷物取扱所をはじめ多くの取扱所や船鍛冶屋、貿易商、旅館などの名をつらねていて、船の往来や港湾労働者の動きのはげしさを物語つてゐる。こうした波止場もまだ外国の船は繫留できず、長い間メリケン波止場から小蒸汽船で沖の船まで運ばれるという状態であった。明治四十五年に別府航路が開かれ、紅丸が就航した時もまた中桟橋からポンポン船で運ばれたということである。しかし、年と共に急速に進展して活気づいた内外国船の出入りは多くなつていて、いつまでも設備をこのままにしておけないという有識者の声が高まつて政府を動かし水上市長を中心<sup>ミナガミ</sup>に神戸で運ばれたことである。

寸横にそれたり、ついでに見たいなど思つて他所へ行こうものなら「何處へ行くか」とどなられたもので、何か港は恐ろしいところという印象が深かつた。

### 4. PORT OF KOBE

造船所では多くの新しい船を造り、それにより新造船界の好況は成金ブームをおこしたのであった。三菱、川崎

造船所では多くの新しい船を造り、それにより新造船は七つの海に雄飛して海運の黄金時代を現出した。外国船が入港すると外國船員や水兵が上陸して元町などを散歩する姿はよく異国情緒を發散させた。そのころたくさん女学校が造られたが、その制服にセーラー服が採用されたのもその影響なしとしないと考えられるがどうであろうか。また内外各国の船の絵葉書もたくさん発売されて今ではなつかしいものになっている。

しかし、昭和五年の世界不況、つづいて我国は不幸な道へと進んでいった。このころから港は市民の近より難い存在となつていった。私は数回戦地からの英靈を迎えて驅り出されて突堤に行つたが、戦時下の防諜という意味もあってのことか、目的の突堤に向つて行かないで一

空襲の被害は港も甚大で、沈んだ船二五七隻に及び、残つたのは突堤だけという有様で港の機能は全く麻痺してしまつた。そして進駐軍に接收されたが、やがて兵庫突堤と中突堤がまず解除され、四国航路・九州航路・貿易も細々ながら復活されていった。昭和二十六年には神戸市が港湾管理者となつて、港は新しく生まれ変わることになった。灘埠頭、第七、第八突堤、兵庫第三突堤、摩耶埠頭、長田港、須磨港が次々と建設されていった。昭和三十八年には中突堤に神戸ポートタワーが建設され、名所の一になつた。そのころを中心に暫く別府航路の第二黄金時代がつづいた。しかし航空機輸送が便利になり、深江にフェリー埠頭などができるため、船便数が少くなつて中突堤も淋しくなつた。さらに海運界は新し

い輸送形態であるコンテナ輸送時代に入ったため、静の数も三分の一ほどに減って、水上生活者も少くなつて昔の面影をすっかり消してしまつたようである。

神戸港のユニークな工法によつて巨大な人

アイランドは竣工し、六甲アイランドも建設中である。

しかし近代的設備が充実したためか、港には大きな機械だけが立ち並んでいる感じが強い。そして今や神戸港は世界の貿易港としてすっかり変貌してしまった。

港に親しみをと当局もポートアイランド、摩耶埠頭をはじめ、港の周辺の公園化をはかり、また由緒の深いメリケン波止場、中突堤附近を公園とする計画があるといっている。殊に若い人たちを誘つて親しみをもたせようと努力されているが、昔のように思いを遠く海の彼方にはせて海外に雄飛したいという夢を抱かせるような雰囲気は作り出せないものだろうか。

## 映画「大日本帝国」を観て

異邦人 T · O

この映画は三人の男が戦争と愛する女の間で苦悩し、それぞれの生き方に殉じて、必死に生きていった物語である。一人は青年将校、二人目は京都帝國大学生で、クリスチャンでありながら恋人を残して特攻隊に志願する青年、さらに三人目は、散髪屋を営み新妻を日本において戦地に赴く青年である。この三人の男たちを軸にしながら、当時の歴史背景をからませてドラマは進行する。

アメリカ人に恥ずかしめをうけるのを拒み日の丸の旗を  
敷きその上で自決する。そして青年将校は数名残った者  
の生命を救う為にアメリカ軍に降伏の意志を伝えに行く  
が、海辺で風にさらされた髑髏を見て、亡き戦友の無念  
が心を突いたか、海辺で遊ぶ米軍人を射殺し、自からも  
背後から射たれて死ぬ。

すすめるその恋人をつっぱねて一生きろよ、死ぬなよ、絶対に生きてくれよーと大声で泣いて別れを告げる。三人目の理髪業の男は、気が弱いというより優しく、ごく一般的の平凡な庶民である。外地で負傷して内地に戻って療養している時、その妻が、夫が戦争にいっている間に生まれた赤ん坊をおんぶして面会にやってくる。そして、その傷が治ればまた戦地へ行く、行かなければ前戦で死んでいった戦友に申し訳ないと妻に答える。すると妻は、夫に向い怒ってーあんたの顔には南無阿弥陀仏と書いてあるよ、冗談じゃない、死ぬなんて、あんたに見せたいものがあるからこっちへ来てーといって戦地へ行く前に預けておいた散髪の道具を見せつけられる。豊

クリスチャンの帝大学生は、日本に残した恋人と瓜二つの現地娘を抱き恋愛をつのらせるが、その娘が無残にも部下に殺されるのをだまつて容認した自分に自己嫌悪を感じる。そして、戦後、日本から会いに来たかつての恋人に向つて、自分はその娘と貴女の一人を殺してしまつた、軍人になつたその時から神の罰をうけなければならぬのだと堅く心にきめて、泣いて日本に帰ることを



かな乳房を夫の前にさらけ出して、どんなことがあっても生きて帰って来てといつて嘆願する妻を抱いたその男は、再び戦地へ行つても、その人間の温かさが忘れられず、サイパン玉碎にあたつても、死ぬための戦さなら私はいやだと上官にいつて最後まで生きのびようと決意する。

そして、日本に残された妻は、彼が生きているとも知らず、サイパン玉碎の知らせを聞いて赤子もろとも海へ心中しようとするが、おんぶした赤子が泣き叫ぶので、死への決意がにぶる。いつたん死ぬ気になった女は強いのか、東京空襲で死ぬ目にあっても、もう絶対に死ぬのか、こうなつたらどんなことがあつても生き抜いてやると頑張る。敗戦後は闇市で生きのびようと、少しは大きくなつた子供を連れて敗戦の街を大きな荷物を背負つて歩き続けるのである。子供が母親の後から泣きながらついていくと、一泣く子なんかいらない、泣くんだつたら一人でどつかへ行つちまいなーといつて止むにやまれず、その子の頬をたたく。後背となつているのは太平洋である。その海辺をせっぱつまつた言葉しかかけてやれ

ない母親と小さな子供が歩いている。でも、泣きじやくする子供にビンタをしながらも、お腹が空いているのかいと優しい母親らしい言葉がかけられ、子供のそばに寄つていったその時である。海辺の向こうから、サイパンで戦死したと思いこんでいるあの夫が近寄つてくるではないか。その時の母親の顔、それまで張りつめていた母親としての厳しい表情ではなく、一人の美しい女としてのいや妻としての優しい顔に戻つてゐる。カメラは長い間その顔をスクリーン半分くらいのアップで撮つてゐる。なんとか生き抜いた三人の親子は真に生死を確か抱き合つう。

このラストシーンが訴えかけるのは、もう戦争なんていやだ、愛する者どうしが離ればなれになり、自分たちの生命を守るために戦つていると信じ込んでいる戦争は実は生命を捨てるための戦さなのだ、と考えるのは私だけであろうか……。



## 「ブームスはお好き」あれこれ

植村 達男

昨年思うところあって「日本ブームス協会」という

団体に所属することにした。そこで、フランソワーズ・

サガンの小説「ブームスはお好き」（朝吹登水子訳・新潮文庫）はいつたいどんな小説だろうかと思ひ読んでみようという気になつた。

一、タイトルについて

この本のタイトルは原題“*AIMEZ-VOUS BRAHMS...*”を訳したものであるが、逐語訳的に訳すと、「あなたはブームスが好きか……」といふことになる。ところで、「ブームスはお好き」というタイトルから受ける感じでは、この言葉の話し手は（男性ではなく）女性であるかのように思われる。少なくとも、私はこの小説を読んで第六章の冒頭の箇所を読む迄は、

「ブームスはお好き」というのは女性が発した言葉だと思い込んでいた。ところが、このセリフは弁護士事務所で見習いをやつてゐる二十五歳の独身男性シモンから、離婚歴のある三十九歳の女性ポールに対して出された音楽会へのさそいの手紙の二行目に書かれたセンテンスである。

この部分を読んでから、「ブームスはお好き」というタイトルを何回も読み返してみたが、このセンテンスはやはり「女言葉」であるような気がしてならない。

もし、男言葉であるなら「ブームスは好きですか」という風に云つた方がしっくりする。しかしながら、この小説のタイトルを「ブームスは好きですか」としたのでは、どうも面白みがない。こんなタイトルでは少なくとも、本の売れ行きにかなり影響を与えることにならう。さりげなく付けられた翻訳小説のタイトルも、決まるまでは読者がばかり知れない糺余曲折があるにちがいない。何も訳者が女性だから、タイトルが「女性言葉」になつたのではないであろう。

## 二、何故ブームスか

この小説の中でチラリと出てくる作曲家名として、著者サガンは何故ブームスを登場させたのであろうか。サガンは一九三五年パリ生まれのフランス人である。また、この小説の舞台もパリである。それなら、サガンは小説の小道具として、ペリオーズ、ビゼー、ドビッシー、サティ、ラベルなどフランス人作曲家を登場させて良かったのではないかともいえる。ところが、この小説は、やはりブームスでなければならない。何故ならこの作品の主要登場人物ポール（三十九歳の離婚歴ある女性）とシモン（二十五歳の独身男性）の年齢差はクララ・シューマン（一八一九—一八九六年）とブームス（一八三三—一八九七）の年齢差と同じに組み立てられているからである。

## 三、車について

「ブームスはお好き」には色々の形で自動車が登場する。シモンは「座席のひくい小型自動車」を運転している。シモンの車に乗る際、ポールはストッキングを破

いてしまう。そして、シモンの車を「すわり心地のわるい車」と感じる。ところが、ポールが何度かシモンの小型自動車に乘るうちに「もうこの車に乗るのも慣れたわ」と思うようになる。この小型自動車は、戦後一時期日本でもかなり普及していたルノーではなかろうか。

そのほか、この作品にはワイパー カーラジオ、エンジンの音などが小説の小道具として効果的に使われている。

ところで、車といえば、サガンは「ブームスはお好き」を発表する二年前の一九五七年に大きな自動車事故を経験している。彼女はクリスチャン・ディオールから借りた田舎家に行くためアストン・マーティン（英國製スポーツカー）を自分で運転中、溝に突っこみ瀕死の重傷を負っている。



## 神戸野球物語〔II〕

### —責任競技の展開とチームの創設—

神戸商科大学教授 棚田真輔

神戸における野球の始まりは、キャッチボールやバウンドボールを打球する程度のものが、主として関西学院・神戸商業・兵庫県尋常師範学校とその附属小学校で生徒や児童の遊戯としてであった。それが明治29年を期して、一転しげームに発展、責任競技や責任試合と呼ばれ敗けると再度挑戦、勝てばチャレンジを受けると云うようにはてしなく対抗戦がつづいた。この原因となつたものは、何と云つても東京第一高等学校野球部の活躍であろう。明治23年頃から一高野球部は、明治学院・溜池俱楽部・青山英和学校・慶應などを連破し全国の覇者として君臨していた。そして明治29年5月25日、横浜外人チームと対戦して29対4の大勝利をおさめ日本野球史に輝く一頁を飾った。更に6月27日には米艦デトロイド

チームを一高に招き対戦、これも22対6の連勝を記録した。

この一高の活躍が新聞や雑誌にのつて全国に報導され、一高の野球が全国津々浦々にまで知られた。神戸における責任競技普及の導火線が、まさに一高がデトロイド軍艦チームを大破した明治29年6月27日に火をふいた。

師範対関西学院戦が、関西学院チームに他校から補充して実現した。

「代理者を入れて始めければ、役割は狂い、計略は外れ、声援は乏しく、はては関学の大敗北……」

当時の関学チームは技術面では師範以上の実力を持っていると自負していたようで、よほど敗れたのが無念であつたのか、その後再三試合の申し込みをした。ところが師範はあれこれ理由をつけ応じなかつた。

— 19 —

この強敵関学に勝った師範が明治29年10月上旬、神戸

居留遊園地に居を構える神戸クリケットクラブ（KCC）

と、わずか3イニング戦であったが、関西初の国際野球試合を行った。師範チームの服装と云つたら股引脚半に革履ばかりで、捕手以外はすべて素手で対戦した。成績の方も服装相応の8対31の大敗であった。東都の勇一高勝利の快挙に酔っていた神戸の好球士達は、師範の敗北に奮起し我こそは雪辱を晴そうと立ち上った。その中に開校されて間がない兵庫県立神戸中学校があり、神戸商業や附属小学校と次のように対戦し産声をあげた。神戸の野球は明治・大正期を通じこの神戸中学校（のちに神戸一中）野球部を主軸に展開、関西一円に舞台を求めて活動する。

明治29年10月中旬

神戸中学校 × - ○ 神戸商業（2点差）

明治29年10月下旬

神戸中学校 ○ - × 附属小学校（13点差）

明治29年10月下旬

神戸中学校 16 - 40 附属小学校

野球試合を実施している。

紅軍 投手 安藤俊吉・捕手 安藤

白軍 投手 石丸忠雄・捕手 遠藤

ところが、同校の会員名簿を見ても南・鳴滝・遠藤・松崎などの名前がない。明治33年に第一回卒業生が出ていたが、第2回の中に安藤俊吉と石丸忠雄の名があった。この石丸はのちに神戸銀行頭取になった岡崎忠雄のことと思われる。

神戸中学校野球会の創立に刺激され、明治30年の春になると、各学校の野球好きの生徒たちが、学校行事が多く忙で学校対抗の野球ができる退屈に耐えかねて、学校の管理下を離れて同好者を募り、つぎのような野球倶楽部を組織した。

幼年会……鉄道局員の瀧本安太郎の尽力で湊川小学校の

関係者30余名で組織。

共和会……白井兄弟が主導となつて、東川崎の予備倉庫

跡を練習場とする団体。

体育会……小野の遊園地で練習をしていた者達で組織した団体。

明治29年11月下旬

神戸中学校 × - ○ 神戸商業（30点差）

この実力では4、5番手という神戸中学校が神戸の野球発展に最初の貢献をする。当時は師範と関学がぬきんじており、次に商業と附属がこれを追っていたという。とは云つても全体的に極めて初步的な段階であったため少しお練習でも勝敗に大きく影響するが多く、技術的な優劣も明確なものではなかったようである。このような雨後のタケノコのような状況にあって、たいした評価をされていない神戸中学に、2年有志の発議によつて「神戸中学校野球会」が組織されたのだ。

いわばそれまで同好者の集団に過ぎなかつた野球団が名実共に全校生、職員から公認され市民権を得たというのである。『神戸中学校友会誌』第一号には

「会を組織し、校長の許を得、尚校費の補助を受けることとなりたれば、神戸中学校野球会と名付、南番一を幹事、鳴滝を会計、遠藤・松崎等を委員と定め、鶴崎会長の下に会員五十名に達しき……」

とあり明治29年11月4日、次のバッテリーで紅白校内

兵庫俱楽部……神戸商業生で兵庫に居住する者達で編成

敏馬俱楽部……関西学院の生徒による団体。

これらの5団体のうち、特に技術面や組織がしっかりとていたのは兵庫と敏馬俱楽部で両者は「負けては復讐し、勝っては復讐せしめ、また復讐し、またまたの有様」といつ果てるか見当がつかないほど試合がつづけられたいたというし、「相戦うことしばしばにて、甲は乙に勝ちては内に敗れ、丁は丙に勝ちては乙に敗る」という有様にて、毎日、毎日暑さもそこなはず練習しけりの活躍であった。夏期休暇中になると中学や商業の主力選手が郷里に帰ってしまう。残された二、三流以下の連中は、東京や大阪の上級学校に進学したOBが帰省して指導したという。しかし、実のところは、彼等のスタンダードプレー的な形式のみをまねて、肝心の基礎技術の進歩はほとんど身につかなかつた。更にこれらの活動には種々の学校や社会人などが加わつており、これらが野球練習以外の飲食や悪い遊戯をさそつたりして、生徒の不良化傾向があらわれ、それが原因して退校処分を受けたり、本分

の学業をおろそかにして及第点が取れず進級できない者も出た。

その頃神戸市内には空地や川河の広場で野球練習に使われたものは次のようだ。滝道の空地、山本通のオリーブ園跡、諫訪山下の空地、山手の師範学校の運動場、三宮鉄道傍の空地、小野遊園地、東川崎の予備倉庫跡、宇治野山の西空地、湊川の切口、湊川原、兵庫近在の空地。生徒達が練習場や相手に不自由せずに、好ましくない大人達に混つて野球する事が2年つづいた。これに閉口した神戸中学の鶴崎校長は、「風儀悪しき俱楽部との野球試合禁止」を部員に云いわたした。この時血氣盛んな中学の幹事は、

「しかば風儀悪しからざる団体のKCCとの試合なれば弊害もなく……」

と校長に談判し許可を得て明治32年6月26日、神戸居留地遊園でKCCと対戦した。『神戸中学校友会誌』は、「山なす人は無多二千人、外人あり国人あり、國びいきに我を忘れて見物せり」

と伝えているように「日本帝国の名譽」をかけ大観衆の

前で、20対9で大勝した。この時の両チームのメンバーは、

吉理一房郎	勝助藏郎	トーストスドートン
俊実義範	康祐多松精	ノーラク
藤木田下	谷田田田	ルツーワクフー
安斎鈴木	泉池柴岡	カヤリドリンハユ
手堅翼	墨手墨手	チウブバブエギラマ
遊捕中	左翼	右投二捕遊
擊手堅	右翼	墨手墨手
左	一三投	翼手墨手
右	一三投	翼手墨手
三	一三投	翼手墨手

これは正しく一高につぐ快挙であった。この神戸中学校のエネルギーは、関西に名を轟かせ、兵庫県の名だたる学校の挑戦をしりぞけ強力チームになり、少なからず日本野球界に貢献する人物を育成した。この事は次回に述べるが、KCCについて少し触れておこう。このスポーツクラブは、イギリス人が主力となっているクリケット・クラブであった。従つて彼等は野球については知つていたし試合や練習もしていたであろうが、専門はクリケットである。クリケットの相手がなく手持ちぶたさであつたことから、日本の学生や生徒間で人気を呼んでいるアメリカの野球で、交換する気になったのであつた。

氣の早い人が外国人の運動競技で日本人が勝ち、本家本元を負かしたものと思い込んでしまった。それにしても先に実施されたボートレース（明治19年）や、のちに始まったサッカー（明治37年）、ラグビー（明治34年）、ホッケー（明治40年）などはことごとく大敗したのに、野球だけは理由はともあれ日本の学生や生徒のチームが勝った。このことは日本に野球が定着した原因の一つになつてゐるかも知れない。

## ぶつく・えんど

なっている。このジャンルはなかなか難しいと思うが、注目したい雑誌だ。発行は隔月刊で四五〇円。

\* \* \*

本と出版の雑誌は育たないと言われている。「本の雑誌」という強烈な個性をもった雑誌もあるにはあるが、「エディター」（のち「本と批評」）や「50冊の本」「本の周辺」「本の本」など意気高く船出した本の雑誌の大半が今は消滅してしまった。皆、月刊誌だったということ、広告がきわめて少なかつたということに共通項が見い出せる程度で、消滅の真因は知らない。

ところが、久しぶりに新しい本の雑誌が出ることになった。イデア出版局から創刊される「BOOKMAN」だ。九月十三日の読売新聞「しゅっぱん」欄に記事が出ている。記事によると、創刊号の特集は「なぜか、いま岩波文庫が読みたくなった」。「老舗のパワーと面白さ」という座談会のほか「再版してほしい岩波文庫の面白本20冊」「岩波文庫絶版リスト」「岩波文庫夜話」など構成。この岩波文庫特集のほか、海外のペーパーバックスを料理する「ペーパーブックス・ランド」が柱と

「出版ニュース」（九月下旬号）に出版流通上おもしろい記事がでている。読者には直接関係がないかも知れないが、深いところで読書生活とつながってくるかも知れないできごとだ。それは、神田村にあるジャパン・ブック・サービスが、地の利を生かして中小書店の客注品の集書を代行する「書店流通センター」を設立したという記事だ。このセンターを利用することによって、注文した本が早く入荷し、読者の手もとに届くことになるなら、読者にとっては一つの光明となるだろう。しかし、新しいパイプは流通上の経費を増大させるわけで、書店にとって経費を吸収できるほどのメリットがあるかどうかにそのパイプを使った流通の今後がかかっているといえそうだ。

\* \* \*

前項を書いたついでに、当店の今年一月から四月までの読者の注文品の入荷状況を表にして概観することにする。

注文品入荷日数

月 所要日数	1	2	3	4	計
1～5	15	14	15	21	65
6	12	3	4	4	23
7	10	7	8	8	33
8	13	14	6	25	58
9	19	25	12	27	83
10	35	31	26	20	112
11	26	42	27	26	121
12	31	41	22	27	121
13	28	37	31	22	118
14	22	31	27	23	103
15	21	14	27	19	81
16	10	13	15	17	55
17	15	10	16	9	50
18	7	7	17	13	44
19	5	3	7	10	25
20	9	3	6	5	23
21	5	0	7	8	20
22	6	9	3	4	22
23	5	8	4	3	20
24	4	1	2	5	12
25	0	2	2	1	5
26～	19	18	19	22	78
合 計	317	333	303	319	1,272
品 切	28	43	38	46	155
発行セズ	6	11	4	8	29
未 刊	2	4	4	5	15
事 故	8	14	10	12	44
不 明	48	42	58	43	191
総 数	409	447	417	433	1,706

この四ヵ月集約の表を見ていただくと、受注してから入荷するまでの日数がどの程度かかっているか、わかっていていただけると思う。二週間で入荷する率は六五・八%過半をようやく越える程度だ。三週間になると、入荷率は八九・二%とようやく九割に近づく。實に神戸という地方にあっては信じられないような日数がかかっているのである。お客様から「どのぐらいでりますか」と聞かれて、苦笑の思いで、「そうですね。大体二週間

ぐ・ら・い・か・か・り・ま・す」という時の書店員の言葉は、言葉は悪いが、少々カマをかけた平均値を言っているもので、確実な根拠は何もない。

二十六日以上かかる「もう、いいかげんにしろよ」本は、四ヵ月で七十八件。その内訳を見てみると七割が雑誌のバックナンバーだ。雑誌における環境と保管には多くの労力を要するのは事実。それが、ここでも明白になった。あと、特徴的なのは、学校の教材などの採用本を

あとから一冊注文する時も、ウンザリ日数派に入つてしまふことだ。注意しよう。注文する人も、受ける人も。

ところで、入荷しない注文には△品切▽△発行セズ▽△未刊▽△事故▽△不明▽とあるが、合計して全体の二十五・四%という数字が出ているが、一番大きな△不明の大半が入荷日記載なしなので、実際は十五%程度と見ていいようだ。

受注後キャンセルになったもの、店頭より即日もしくは翌日補てんしたものは数に入れていない。また、△事故▽とあるのは、書名ちがい、冊数不足、版元不明、不扱い、版元直接取引商品を指している。

何のなぐさめにもならない数字だが、これが注文品の流通の現状だ。



## 郷土誌の窓

△六甲▽という名前はムコ（武庫）につながるという。神戸の背骨を形成する山系である。急峻な中腹、準平原の山頂、ここに生棲する動物や植物を書きこんだ本が神戸新聞出版センターから刊行された。室井綽・清水美重子編『六甲の自然』（九八〇円）がその本だ。六甲山系全体にわたるもの、そして東部、中部、西部、北部と区分して、特徴的な動植物を多くの人たちがこまかく書きこんでいる。楽しい自然の読みものだ。

\* \* \*

一本といえよう。

\* \* \*

\*

神戸新聞・朝日新聞の八月二十五日付朝刊に文化情報誌「K O B E C 情報」が創刊されたことが報道されている。両記事によると、創刊号（9月号）は八月二十五日発行で以後毎月二十五日に発行される。発行部数は二万部。内容は、神戸市とその周辺で催される文化関係の行事や情報を載せたもので、市民の芸術鑑賞の便宜を図り、文化活動の活性化を願つてのもの。創刊号はB5判二十四ページで①美術②音楽③演劇④その他の四項目別に九月の予定を掲載。編集・発行は今春発足した神戸市の外郭団体・神戸市民文化振興財団。この「C情報」は

神戸市役所、各区役所、出張所、文化ホール、文化センター、各プレイガイドで希望者に無料で配布されています。また、行事を掲載してもらいたい人は、行事の名称、日時、会場、出演者、有料・無料別、主催者名、問い合わせ先、簡単な内容紹介を書いて、神戸市中央区雲井通中央区役所内、神戸市民文化振興財団文化を通観した重厚な本で、学習教材としても地域研究書としても内容の豊かな本になっている。赤穂の上水道のこと、塩田のことなど一般に興味をひく題材も多く貴重な

す。原稿の締め切りは発行日の一ヶ月前です。

\* \* \*

八月二十四日の朝日新聞には「隨筆こうべ」の第二号が発行された記事が出ている。記事によると、今号は「自分史でつづる昭和史」を特集している。自分史とは自分の生きたさまを時代と重ねて見直す試みもあり、戦争体験の問い合わせなどの中でも最近特に关心が高まっている。発行は「隨筆こうべ同人会」（神戸大学教養部川端柳太郎研究室内）で、朝日カルチャーセンター神戸川

一昨年開講した「隨筆教室」にかかわった人たち約四十人で作っている。第二号の「昭和史」特集は、昭和のはじめ、戦時下、敗戦前後、もはや戦後ではない、の四つの時期に分けて各六・十一編を集めている。

\* \* \*

神戸ヒヨコ登山会といえど知る人ぞ知る長い歴史を持つた六甲登山グループだ。この登山会が創立六十周年になり、記念誌づくりをすすめている。朝日新聞の八月二十七日付に記事がでているので紹介しよう。ヒヨコ登山会は大正十一年十月五日座つたままの仕事で体をこわし

た市民ら十人が毎朝、新鮮な山の空気を吸い、歩くことで健康を保とうと発足。現在、会員の平均年齢は五十歳前半。うち、半数以上が毎日早朝、再度山など七つの山筋を登っている。記念誌づくりは五十周年をはじめ、節目ごとに出しておき、今回四冊目。これまで大部分をさいていた会の生い立ち、会報の収録などを少くして、代わりに約八十人の会員たちの意見や感想を特集するのが特徴となっている。

\* \* \*

保育社から「古来の古代遺跡シリーズ」が刊行されることになった。その構成は鹿児島、熊本、福岡（二分冊）、高知、香川、山口、鳥取、兵庫（二分冊）、大阪（三分冊）、奈良（四分冊）、富山、長野、山梨、静岡、神奈川、東京（二分冊）、千葉（二分冊）、群馬（二分冊）、福島、山形となっている。兵庫は北部と南部に分かれて「兵庫北部」が十月に刊行される。著者は兵庫県教育委員会の樋本誠一さんと豊岡市立郷土資料館の瀬戸谷昭さん。このシリーズ全体の企画は同志社大学教授の森浩一さんだ。パンフレットによると「このシリーズは、日本

各地の遺跡や遺物、発掘記録などを写真で紹介していくながら、遺跡案内を兼ね、地域の文化、古代史を実証的に考えようとするもの」である。考古学徒ならずとも興味ある書物になっているようだ。B6判と小型ながら、今秋ぼくが注目しているシリーズだ。定価は各巻一一〇〇円（一三〇〇円）。

\* \* \*

「君の名は」「鐘の鳴る丘」の作家として親しまれた菊田一夫さんの宝塚歌劇での足跡をたどった本が発行され、オールドファンを中心に人気を集めているという。八月十八日の神戸新聞にその記事が出ている。記事によると、「愛して恋して涙して—宝塚と菊田一夫」（八〇〇円）というのが書名で、名作の数々を当時の写真と記事で振り返っている。菊田さんは、宝塚歌劇の作、演出でも知られ、昭和十五年の「赤十字旗は進む」にはじまり、「霧ふかきエルベのほとり」「花のオランダ坂」「カチューシャ物語」など人気作品を残している。お問い合わせは、同歌劇団出版課（電話〇・

）まで。

(N)

ある日、賀川豊彦の『死線を越えて』が欲しいというお客さんがあって、書棚をさがしたが見当らなかつた。「じゃ、注文してください」ということになつて、書名目録をひいたが載っていないのである。ぼくは大いに慌てた。あの本がないはずがない、と思ったのだ。信じられない思いだつた。お客さんはキリスト何とかという出版社から発行されているはずだという。仕方なく、お客さんはキリスト教関係の専門書店を紹介し、ぼくはぼくでキリスト新聞社に注文を出した。郷土の本として準備したい本だったから。それが運よく入荷して、さらに運よく一週間後に売れたのである。この本、二度と忘れることはないだろう。

## 海文堂案内版

その出版物の厚みは都市生活者に思いがけない世界を拓いてくれることでしょう。期間は十一月一日から十五日まで。

★海文堂のマラソン・イベントへ出版社別ブックフェア▽を、九月十五日からブックプラザを開催しています。第一回は翻訳を中心としたジャーナリスティックな出版活動を続いているサイマル出版会。地味な本ながら多くの人たちに喜んでいただきました。

第二回は、十月二日から十五日まで、九州・福岡の地区で質の高い出版活動をくり広げている葦書房の出版物を展示します。きっとその出版物は読者の内面に大きなインパクトを与えることでしょう。

第三回は、青森県の出版社、津軽書房の本を展示します。東北に根を下ろした出版物を次々と生みだし、全国にもその名を知られた出版社です。神戸で初めて会う人も多いことでしょう。期間は十月十六日から三十一日まで。

第四回は、有名な出版社ながら、その出版物が書店の店頭に並ぶことの少い家の光協会の本を多数展示します。

★二階ギャラリーでは、前回ご案内しました△倉掛喜八郎ペント画展▽（十月九日～十七日）のあと、△丹の会・絵画展▽を開催いたします。期間は十月十九日から二十四日までです。大石瑞、小原美沙子、衣畠昌美、篠田良枝、村上満知子、米田優美子、奥村隼人の皆さん絵画をギャラリーいっぱいに展示します。素晴らしい美の世界へお立ち寄りください。ギャラリーはそのあと、十月二十五日から三十一日まで△パリの詩情・松瀬太郎水彩画展▽を開きます。

★二階売場では、啓学出版が発行する『最新海外コンピュータ図書』を扱っています。海外の最先端のコンピュータ情報をぎっしりつめこんだ本です。

毎年希望の多い『潮汐表』の八十三年版は十月中旬に刊行の予定です。特に『瀬戸内海潮汐表』は海での仕事やレジャーに必備の本。間もなく入荷します。△階・海事ゾーンでお求めください。

★新書ゾーンでは『世の中にヤタネがある』「雑学の本フェア」のあと、十月から「あなたの暮らし、安全ですか」フェアを開催します。△新書を中心に現代の商品生活の虚妄性、危険な商品のキケンな部分を指摘する本を二〇点ばかり揃えます。